



「座右の書を持とう」－読書のすすめ－

今、こどもたちの読書離れが叫ばれて久しいなか、令和4年度の「学校読書調査」(全国図書館協議会調べ)によると、1ヶ月に1冊も本を読まない「不読率」の割合は、小学生6.4%、中学生18.6%、高校生51.1%と言われています。読書の魅力は、1冊の本を読むことで、自らの「世界観」「歴史観」「人生観」「倫理観」「使命感」を高め、偉大な先人や優れた先輩方が一生かけて体得した教えや生き方に学ぶ点にあると思います。ときに1冊の本との出会いが、その人の人生に大きく影響を及ぼすことがあります。東中の生徒たちにも、そんな「座右の書」というべき、自らの生き方や考え方に影響を与えるような本との出会いを、是非とも中学生のうちに経験してもらいたいと願っております。

本校では、朝の10分間読書や新刊紹介コーナーの設置、本の貸し出し、学級文庫の充実等、さまざまな機会をとらえて本に慣れ親しみ、読書活動を推進しております。各ご家庭においても読書習慣の確立を目指し、折りに触れ、話題にさせていただければ幸いです。

《ご紹介》

「子供の読書キャンペーン ～きみに贈りたい1冊～」

文部科学省では、子供の読書活動を推進するため、「子供の学び応援サイト」に上記キャンペーンの特設ページを設けています。スポーツや芸能分野で活躍している著名人による子供たちへのおすすめの本とメッセージを紹介しています。



東金市立東中学校長 上之園 和朗

生徒会役員選挙・立会演説会

9月20日(水)に生徒会役員選挙の公示があり、会長候補2年生1名、副会長候補1,2年生各1名総務候補1,2年生男女各1名が、それぞれ立候補しました。10月13日(金)には、選挙ポスターが掲示され、選挙活動がスタートしました。さらに、10月23日(月)からは立候補者による朝のあいさつ運動とお昼の政見放送も始まり、本格的な選挙ムードとなりました。

そして11月10日(金)、生徒会役員選挙当日となりました。立会演説会では、候補者が選挙公約を述べ、推薦責任者による応援演説も行われました。誰もが学校生活をよいものにしていこう、みんなと力を合わせて頑張りたい、という決意が表れていました。

投票の際は、東金市選挙管理委員会からお借りした実際の選挙で使われる「記載台」と「投票箱」を使用しました。みんな真剣な面持ちで投票に臨む姿が印象的でした。

投票結果は全ての候補者が当選し、東中学校の新しいリーダーが選出されました。今年も無事に生徒会役員選挙が行われましたが、約2か月もの間、立候補者の受付準備から演説会の運営、開票作業など、たくさんの業務に責任を持って遂行してくれた選挙管理委員の皆さん、ありがとうございました。

現在は18歳で選挙権が与えられます。3年生は、3年後には本物の選挙で投票することができます。世の中をよりよくするために力を発揮してくれる候補者を、責任をもって選べるようになってほしいものです。



選挙管理委員長	
辻 花凜(3-2)	
選挙管理委員	
鈴木 海偉(1-1)	稗田 達也(2-3)
塚瀬 大颯(1-2)	田畑 晴士(2-4)
鶴岡 優衣(1-3)	宮嶋 蒼太(2-5)
辻 杏璃(1-4)	茂木 孝太(3-1)
安里 美潤(2-1)	石橋 昊樹(3-3)
井戸口 華(2-2)	伊藤 夜月(3-4)

会長	
戸村 将康(2-2)	
副会長	
清水 綾乃(2-4)	渡邊 雄斗(1-4)
総務	
高井 理来(2-5)	桑原 佑和(1-4)
橘内 愛乃(2-1)	土肥よより(1-2)

「救急救命法講習」

11月7日(火)に2学年保健体育科の授業の一環で「救急救命法講習」を行いました。講師には山武郡市広域行政組合消防本部に依頼し、中央消防署の方々に来ていただきました。

今回の講習は、胸骨圧迫及び人工呼吸による心肺蘇生法とAEDの使用方法を学びました。事故等で心肺機能が停止した状態の傷病者に対し、救急隊が到着するまでの間、これらの措置をとることで傷病者の生存率が6倍になります。

万一来備え、生徒も真剣な表情で胸骨圧迫に挑戦しました。思った以上に体力を使うことがわかりました。目の前で本当に人が倒れたら、この講習を思い出して実行してもらいたいです。



「PTA教育講演会」

11月11日(土)に「PTA教育講演会」が開催されました。この講演会は、コロナ禍でPTAバザーが開催できなくなり、それに代わるPTA行事として昨年度から開催されています。

今年度の講演のテーマは、「豊かな人生の設計図を描こう～未来を宿す大切なあなたへ～」として、元助産師の賀久はつ先生にご講演いただきました。

4,300人もの赤ちゃんのお産に立ち会ったご経験から、出産、子育てに対する母子への愛情があふれる講演でした。中学生には少し難しい内容もあったと思いますが、しっかりと話を聞き、これからの人生に生かしたいといった感想が聞かれました。以下は、生徒及び保護者の感想です。

私たちは、確率が低い中で生まれたというのはすごいと思いました。いのちの大切さをよく知り、私が大人になり妊娠したら、よく勉強をして子どもが良い気持ちで生まれるようにしたいです。

それに今、私は結構体を気にしてダイエットをしていて無理なダイエットは良くないことを知ったので気をつけようと思いました。(1年生女子)

男女の平等が大切で、自分はこの世に1人だから、1人1人を大切にすることが大切だと知りました。だから、集団行動である学校生活を大切に過ごそうと思いました。(2年生男子)

あまりこういう話を聞く機会がないので、とても勉強になりました。出産はただ「辛い、痛い」だけではなく、たくさんの思いがあるのだと改めて感じました。いろいろな思いをもって産んでくれた母や支えてくれた父に感謝の気持ちを忘れず、両親のおかげで今、私はこうやって過ごせているのだと思ったので、しっかり「ありがとう。これからも頑張ります。」という前向きな気持ちを忘れずに頑張っていこうと思います。(3年生女子)

保健体育の授業では教えてもらえないことをこういう形で子どもたちが貴重なお話を聞いて、親としてもとても良かったです。

これから、子ども達が性に関して興味が出てくる年齢だと思いますので、親としてもしっかりと答えることができたらいいと思います。

子ども達が自分自身を大切に思い、友人達も大切に思っていてほしいです。子ども達にとって、よりよい人生を歩んでいてほしいです。

PTA役員の皆様、先生方、はつ先生、本日は大変貴重な時間を作ってくださいありがとうございました。

(3年生保護者)

今まであまり親の思っていることがわからなかったけど、今回賀久先生のお話を聞いて、改めて親の思っていることがわかったような気がします。賀来先生が、自分の親の気持ちを代弁してくれたような気持ちでとてもうれしかったです。それに出産の話を知ってとても将来のための勉強になりました。(1年生女子)

講演を聴いて、生まれて2時間は脳がさえることや、出産前の期間、母の1日の過ごし方は子どもの数千日分も価値があることから、私は出産前後の期間は子どもの形質が出来上がる人生で一番大切な期間だと感じさせられました。

また、この講演で得た知識は大切だと思い、忘れないようにしようと考えました。(3年生男子)

自分の子どもは自分たちが責任を取るとおっしゃっていたので、親はとても重大な役目だと思った。悩みや苦勞を乗り越えられれば自立が得られるということに、自分の今の姿と重なり合った。だから苦勞をすることがあってもあきらめずに乗り越えようと思った。

私生活でも直感力が必要とおっしゃっていたので、友達の見解に流されず、自分の意志も貫いていこうと思った。(3年生女子)

子ども達を出産した直後の「カンガルーケア」を思い出しました。温かくて愛しい、あの時間はとても大切なときだったのでですね。

娘、息子がおりますが、自分自身を大切にしてほしいと改めて思いました。

思春期、反抗期、さみしい部分もありますが、子離れの時期でもあるなと思いました。これからも子ども達が豊かな人生を送れる手助けをしていけたらと思います。

(1年生保護者)